

## 令和8（2026）年度 日本体育大学 入学式（学長式辞）

新入生の皆さん、本日はご入学、誠におめでとうございます。ここに日本体育大学の新たな一員として加わられた皆さんを、心から歓迎いたします。また、本日を迎えられる新入生の皆さんはもとより、これまで深い愛情をもって育ててこられた保護者ならびにご家族の皆様におかれましては、さぞかし感慨深いものがあるかと拝察申し上げます。日本体育大学を代表し、謹んでお祝い申し上げます。

本学は、今から135年前の1891年、日高藤吉郎先生によって創設された「体育会」を源流としております。明治中期、近代合理主義が社会に浸透し、富国強兵政策が推し進められていた時代にあつて、体育・スポーツを通じた身体の涵養は、国家的にも極めて重要な使命でありました。その後、女子教育における良妻賢母思想の広がりとともに、本学でも女子部が早期に設置されました。そこには、女性の健全な身体の育成に対して体育・スポーツが果たす役割の大きさが強く認識されていたからにほかなりません。このように、本学は創立以来、身体を基盤とした教育と学びを実践する教育機関として歩みを重ねてまいりました。時代が進むにつれ、体育・スポーツは単なる身体教育の手段にとどまらず、人間形成、健康・医療、国際協力、さらには経済活動に至るまで、多様な領域に力を及ぼす存在へと発展してきました。体育・スポーツの果たす役割は、まさに飛躍的に拡大したのです。

現在の日本体育大学は、体育・スポーツを学問の核としつつ、その周辺領域へと学問体系を広げ、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、5学部9学科を擁するまでに発展いたしました。本学では、身体を通して「学問を学び」、「社会性を身につけ」、「人間力を高める」ことを教育の根幹に据えております。また、本学の教育の中心には、実技・演習・実習といった「身体を通して学ぶ」領域があります。人間が獲得する知には、形式知と身体知の二つがあります。本学は創立以来135年にわたり、この身体知の「創発能力」、すなわち自ら動きを生み出す力を涵養する教育を重視してまいりました。

本学の教員は、学生の運動発生を援助する「捉発」という独自の教育文化を継承する専門家であり、これこそが日体大の伝統であります。身体知とは、単なる技術の習得にとどまらず、経験を通して内面に蓄積され、状況に応じて自律的に発動される知の体系です。本学が多くの体育教員や指導者を輩出し、多くのオリンピック・パラリンピアンを育ててきた背景には、この身体知の形成が大きく寄与しております。皆さんはこれからの四年間、本学で身体知を集中的に学び、鍛え、磨き上げていくことになります。この教育領域は、世界的にも類を見ないものであり、AIをいかに駆使して

も到達し得ない、まさに別次元の知の体系であります。

最後に、日体生として歩み始める皆さんに、ぜひ実践していただきたいことがあります。それは「挨拶」です。挨拶は人と人との関係を開く扉であり、コミュニケーションの第一歩です。挨拶をされて不快に思う人はいません。コロナ禍を経て、本学でも挨拶の文化が薄れつつありますが、ぜひ皆さんの力で日体大の伝統を守り、さらに発展させてください。また、日体大に入学したからには、ぜひ何らかの形でスポーツと関わりを持ってください。競技に打ち込むこともあれば、スポーツを支える側として活動することもあるでしょう。たとえ自身が競技に参加できないとしても、スポーツの世界に触れ、その価値を理解することは、皆さんの人生にとって大きな財産となるはずです。スポーツとの関わり方は多様です。ぜひ日体大で、密度の濃い経験を積んでください。

人生 100 年時代と言われる今日、大学で過ごす時間は一瞬に過ぎません。しかし、この「大学生」という時期は、皆さんの人生を彩り、方向づける極めて重要な期間です。自らの目標をしっかりと掲げ、一步一步着実に歩むことで、夢の実現に近づくことができるでしょう。学生生活の中で、これまで出会うことのなかった世界とつながり、大きく成長されることを期待しております。

本学での学生生活が、皆さんにとって実り多く、充実したものとなりますよう祈念し、式辞といたします。

令和 8 年 4 月 3 日

日本体育大学

学長 石井 隆憲